

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 1月鳥類調査 速報

●実施状況

令和6年1月16日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温5.2～7.2℃、北西の風、風速1.0～5.8m/secであった。調査当日は中潮で、干潮が14時29分(74cm)、満潮は8時38分(174cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	11:23-12:46	13:35-14:31	9:20-10:36
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	7.0	7.2	5.2
風向	北西	北西	北西
風速(m/sec)	5.8	5.1	1.0
備考	調査開始時、潮が高かったが徐々に干潟が干出。	最干潮時刻でも干潟の干出は少なかった。	公園側に人が少なかった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位2種	スズガモ(7484羽) カンムリカイツブリ (1198羽)	コガモ(44羽) アオサギ(29羽)	カワウ(1067羽) スズガモ(324羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロツラヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、ハマシギ、ミサゴ、ハヤブサ等、重要種として15種を確認。</li> <li>・干潟でシロチドリとハマシギが採餌。カワウの群れが休息。</li> <li>・東なぎさ上空をミサゴ、トビ、ハヤブサが飛翔。沖合でハヤブサがハンティングを行う。</li> <li>・東なぎさの護岸でクロツラヘラサギが休息。</li> <li>・海上でスズガモとカンムリカイツブリの群れが休息。</li> <li>・沖合でトウゾクカモメを確認。本調査では初記録。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオセグロカモメ、ミサゴ、オオタカ等、重要種として8種を確認。</li> <li>・干潟でセグロカモメとアオサギが休息。</li> <li>・カモ類はオカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの7種が見られた。</li> <li>・ウミウが本調査地点で初記録。</li> <li>・ミサゴとオオタカが上空を飛翔。</li> <li>・護岸でイソシギ、ハクセキレイ、タヒバリが採餌。アオサギが構造物上で休息。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミアイサ、オオバン等、重要種として9種を確認。</li> <li>・第六台場と鳥の島でカワウの営巣が始まり、大きく育ったヒナの姿が見られた。第六台場で554巣、鳥の島で127巣を確認。</li> <li>・アオサギは飛来を確認したが、営巣は見られなかった。</li> <li>・カモ類はホシハジロ、スズガモ、ウミアイサの3種が、お台場海浜公園から鳥の島の水面で休息。</li> <li>・カイツブリ類はカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの3種が休息。</li> <li>・トビの個体数が多く、第六台場で13羽、鳥の島で1羽を確認。</li> </ul>



<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は狭く、調査中に徐々に広がっていった。



○出現種(シギ・チドリ類)

シロチドリ 15羽とハマシギ 100羽が干潟で採餌、タシギ 2羽がヨシ原際で休息していたほか、イソシギ 1羽の鳴き声が聞かれた。シロチドリは環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)、ハマシギは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、タシギとイソシギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(クロツラヘラサギ)

過去最多となる 5羽のクロツラヘラサギが東なぎさの消波ブロックで休息していた。本種は種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定されている。



○出現種(猛禽類)

東なぎさ上空を飛ぶミサゴ 2羽、トビ 1羽、ハヤブサ 1羽と、沖合でハンティングするハヤブサ 2羽が確認された。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)、トビは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)、ハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。

○干潟利用状況

カワウの群れとアオサギが干潟で休息していた。干潟が広くなるとセグロカモメが飛来し、休息した。



○海面の状況

カンムリカイツブリとスズガモの群れが範囲内から沖合にかけて見られた。カンムリカイツブリは沖合 871羽、範囲内 327羽、スズガモは沖合 6401羽、範囲内 1083羽であった。スズガモとカンムリカイツブリは東京都レッドリストで留意種に指定されている。沖合ではホオジロガモとウミアイサ、本調査初記録のトウゾクカモメ 1羽が見られた。ホオジロガモは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



## <森ヶ崎の鼻>

### ○調査地点の状況

最大干潮時刻だが、干潟はわずかに干出したのみ。



### ○出現種(カモ類)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロの7種が確認された。調査地北東側の京浜島付近でオカヨシガモやコガモ、ハシビロガモが採餌、カルガモが休息、南西側の護岸上でヒドリガモとコガモが休息、南側の水面ではオカヨシガモやカルガモ、オナガガモ、コガモが採餌していた。



### ○出現種(タカ類)

上空を飛翔するミサゴとオオタカが確認された。オオタカは環境省レッドリストで準絶滅危惧 (NT)、東京都レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されている



### ○出現種(ウミウ)

流木の上で休息する1羽と遊泳中の1羽が確認された。森ヶ崎の鼻では初記録。



### ○干潟利用状況

セグロカモメ9羽とアオサギ1羽が休息していたのみで、干潟を利用する鳥は少なかった。



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島でカワウが多数営巣していた。



○出現種(カワウ・アオサギ)

カワウが抱卵・<sup>いくすう</sup>育雛中で、第六台場で 554 巣、鳥の島で 127 巣、合計 681 巣を確認した。第六台場ではヒナの鳴き声がよく聞かれ、大きく育ったヒナの姿が多く観察された。一方、鳥の島ではヒナの声が多く、多くの巣は抱卵中と考えられた。目視できたヒナは第六台場で 207 羽、鳥の島で 2 羽であった。アオサギは第六台場の樹林で 12 羽、鳥の島で 15 羽が確認されたが、営巣に関わる行動は見られなかった。

カワウのヒナ(矢印)と成鳥



まだ小さいカワウのヒナと成鳥



アオサギ

○出現種(カモ類)

ホシハジロ、スズガモ、ウミアイサの 3 種が、お台場海浜公園から鳥の島にかけての海上で見られた。スズガモがもっとも多く、合計 324 羽が休息していた。東京都レッドリストでホシハジロは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ウミアイサは情報不足(DD)に指定されている。



ホシハジロ



スズガモ



ウミアイサ

○出現種(カイツブリ類)

カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの 3 種が確認された。このうち、カイツブリとハジロカイツブリは東京都レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。



カイツブリ



ハジロカイツブリ



カンムリカイツブリ

<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河でウミネコは確認されなかった。付近でカワウ 27 羽、アオサギ 1 羽、ホシハジロ 11 羽、キンクロハジロ 1 羽が観察された。

<トピックス>

-ウミウの観察記録-

ウミウは平成 30 年度以降、お台場海浜公園と葛西人工渚で少数記録されているが、今回の調査で初めて森ヶ崎の鼻でも観察された。1 月はすべての調査地でウミウが確認され、個体数は葛西人工渚で 3 羽、森ヶ崎の鼻で 2 羽、お台場海浜公園で 1 羽、合計 6 羽であった。



森ヶ崎の鼻のウミウ（中央の 1 羽）



お台場海浜公園で第六台場にとまるウミウ



葛西人工渚のウミウ（左の 2 羽）